

ふしみさらだボール子育て情報



「思いを巡らせ」
令和6年6月26日号
板橋富士見幼稚園



待って伝わるコミュニケーション

「うんと～、えっと～」 「なんだっけ」 「だから」 「じゃあ」 「〇〇で～」 など、幼児期は、言葉を相手に伝えようとするとき、このような『間』の言葉をよく使うことがあります。これは、幼児が自分の思いを伝えたい時に、頭の中で伝えたい言葉を選び繋ぎ合わせている時間です。3歳になると1000語程度の言葉を獲得し、5・6歳までには約3000語を獲得すると言われています。頭の中では、いくつかの引き出しのようなモノの中に覚えた言葉を収納し、分類しているのです。例えば、時や時間のボックスの中には「昨日・今日・今・明日」などの言葉が入っています。そして、場所のボックスでは、「家・友達の家・田舎・山・海・ホテル」などが収納されています。

子どもは、このようなボックスの中の言葉を拾い上げながら、自分の伝えたい言葉を創り出していきます。多様な場所や出来事に触れさせてあげると、その時の言葉をこれらのボックスにどんどん収納していきます。文章にするためには、まず“時間や場所”をボックスから探し出し、次のボックスから“何を“どうした”のか…というように、構成していきます。そのため、それぞれのボックスから使う言葉を探している時間が、『間』の言葉となるのです。

皆さんは、子どものこんな言葉を耳にしたことはないでしょうか。

「きのうパパとマクドナルドを食べに行くの」

さてさて「昨日」なのか「今日」なのか。皆さんは、どう返答しますか。ほとんどの人は、「今日なの？」それとも「昨日なの？」と聞き返すでしょう。しかし子どもは、正しい構文で自己の思いを伝えたと自信を持っているので、否定された気がして、ショックな気持ちになることもあります。

そのため、昨日か今日かの区別がつかない時は、さりげなく「美味しかった？」と尋ねてみてください。子どもは、大きな声で自信を持って「まだ、食べていないもん」などと教えてくれることでしょう。

子どもの言葉に耳を傾けることは、子どもの語彙を豊かにする事であり、言葉を豊かに育てることとなります。あまり急かしたり否定したりせず、親子のコミュニケーションを楽しんで頂けると良いかと思えます。



【写真：アサガオのつるはどのくらい伸びたかな？テープで長さを測ってみよう！】